

地方創生をかけた地域特性を活かす「人材戦略」

学生・自治体・大学への新・三価値

2025 年 5 月

学生活躍戦略補佐官

「日本一学生が活躍するまちづくり」事業は、地方自治体・宇部市の持続可能性をかけた「人材戦略」です。

地方自治体が直面する最大の課題の一つは、持続可能な地域社会を支える「担い手」の確保です。宇部市が 2025 年 3 月に策定した「宇部市人口ビジョン（改訂版）」によると、2025 年 2 月時点で宇部市の人口は 15 万 6,000 人ですが、15 年後の 2040 年には、13 万人余りにまで減少すると見込まれています。こうして厳しさを増す中、本事業は、学生という地域特有な人材の力を最大限に引き出し「若者に選ばれるまち」を目指します。

本事業は、三つの新たな価値が柱となっています。

第一は、活躍する学生に向けた新たな価値です。これまで地域社会への参画に関する動機づけは、学生の主体性に依存してきた部分が少なくありませんでした。そこで本事業のうち、山口大学地域未来創生センターと連携し運営するワークショップでは、「いまから始める実績づくり」として、参加を募集しました。結果として、予想を上回る申し込みがあったことは、社会参画に臨む学生に対する提供価値として「実績」が成立する可能性を示唆しています。

第二は、宇部市が「選ばれるまち」となるための新たな価値です。補佐官を拝命するまでの学生との対話から、地元出身者を除く、ほとんどの学生にとって、宇部市は「進学した結果、暮らすことになったまち」でした。しかし本事業を通じて、経験を求める学生にとって、宇部市は「進学先として選ぶ理由」になる可能性があります。

第三は、高等教育機関が宇部市と連携することで学生に提供できる新たな価値です。複雑・多様化する現代社会において、学びは学校の敷地内だけで完結するものではありません。地域課題解決への挑戦を通じて、実践的な経験を積む中で、学生は自らの専門や関心と、社会との接続を実感し、将来的なキャリア形成にも考えをめぐらせるはずです。

これら新たな価値は、地域における人材育成と社会参加の構造そのものを見直す先進的な取り組みです。「就職・定住」ありきではなく、まず「共創に参画する」という第一歩を目指す方針が、関係人口を生み、市政発展への循環をつくることにつながります。本事業に先立って、これまでも宇部市では、学生活躍によるまちづくりが実践されてきました。宇部新川駅の多目的トイレ等の整備や、ときわ公園にぎわい創出事業における「ときわドッグフェス 2025」「リアル謎解きゲーム in ときわ公園」「ときあかり 2025」、ユーピーアールスタジアム（恩田運動公園野球場）で開催された「THE スポーツデー」などの事例は、学生の発想と地域資源が結びつくことで生まれた成果です。これらの積み重ねが、「学生とともに育つまち」という文化を着実に育ててきました。

これは、宇部市が市になった 1921 年から受け継がれる「共存同栄」の精神が、現代にも残っているからだ、共創に参画してきた一員として感じています。宇部市発展の基礎を築いた渡辺祐策翁が掲げた「掘りつくす運命にある石炭からいずれ無限の工業に移行する」という卓越した先見の明から改めて学び、学生もまちも巻き込んで宇部市を変えていく、そして若者に選ばれるまちへと変わっていくために、本事業は必要不可欠です。「日本一学生が活躍するまちづくり」事業の継続・成功は、地域の未来を拓く人材戦略として、全国の地方都市にとっての先駆けとなります。

さあ、あなたとまちの未来へ